南米訪問の稲嶺知事に聞く

WUBの活動に期待

連携強化で沖縄飛躍

沖縄県人移民九十五周年記念式典出席などでブラジル、アルゼンチンを訪問した稲嶺恵一知事に二十八日午後（日本時間二十九日午前）インタビューした。

―南米訪問を終えた感想は。

「両国を訪問して沖縄県人がいかに故郷を思う心が強いかを肌で感じ、実感した。三世、四世になって言葉も分からず、風俗、習慣も違う中で、沖縄独特の文化、芸能の強さをつくづく感じた。若い人たちが三線、太鼓、舞踊、空手を学ぶことで沖縄のアイデンティティーを継続していくんだと痛感した。今後とも従来以上に大事にしていきたい」

「県系人とのネットワークを構築することが、沖縄の国際化に向けた飛躍につながる」と話す稲嶺恵一知事＝28日午後、アルゼンチン・エセイサ国際空港

―県人子弟を県内で研修受け入れ制度への継続要望が非常に強い。

「県費留学生やジュニア・スタディーツアーに対する期待は、多くの県人が非常に期待している。県として継続していかなければならないことを痛感した」

―ブラジルとアルゼンチンの県系人の活動状況は微妙に異なる。

「国の経済力の在り方による。ブラジルはサンパウロを中心に経済力が伸びていることもあり、想像を絶するスケールの事業展開をしている方もいる。アルゼンチンは資源の豊かさや美しさは変わらないが、経済政策の失敗で打撃を受けた。たくさんの仲間から出た喜びは一つのサクセスストーリーだ、沖縄県人の特徴は、苦労しながらも子弟の教育に力を注いでいることにほっきりしている」

―ブラジルでは県系二世の眞志堅ルイス氏が入閣し、活躍している。

「大統領の片腕と言われるほどの実力者で、ブラジルの各階各層の人々がその動向に興味と関心を持っている。自分たちの仲間から出た喜びは一つの縄はどう県系人と結びつくかだ。二世、三世、四世、五世になると、もうその国の人だ。育てに非常に多くの影響を与えると思う」

―県系人ネットワークをどう生かすか。

「WUB（ワールド・ウチナーンチュ・ビジネスネットワーク）に期待している。国際的なネットワークをうまく活用したビジネス能力が要求される。世界的なネットワークを活用している華僑のいい見本がある」

―世界のウチナーンチュ大会への思いは。

「第三回は二〇〇一年だから、次は五年後だ。四年後という話もあるが、IDBの次総会があるので、大きな催しは一年に二つはできない。二〇〇六年が一つのベースになる」

（政経部・外間聡）